

## 平成 29 年度 人事交流（病院→大学）

今年度は、昨年度の意見を踏まえ、幾つかの日程を計画し、可能な日程で複数回参加できるような体制で実施し、6 病院（小国町立病院・最上町立最上病院・公立高畠病院・川西湖山病院・順仁堂遊佐病院・尾花沢病院）から人事交流に参加いただきました。

### 【1 回目】平成 29 年 6 月 28 日(水)～6 月 30 日(金)

#### ○主な受講科目

公衆衛生看護方法論Ⅱ、ジェネラリズム看護論、保健医療論、小児看護方法論、研究方法論Ⅱ

・対象者や地元を知ること、ジェネラリスト、スペシャリストになるためには、幅広い知識を知り、柔軟性を持って看護することを改めて実感した。小規模病院での役割、今後の看護に役立てたい。そのためにも、学び・振り返ることが必要であり、大学での講義を受講して良かった。



### 【2 回目】平成 29 年 10 月 3 日(火)～10 月 5 日(木) \*成人慢性期看護学実習 2 週目

#### ○主な受講科目

成人慢性期看護学実習

- ・シャドーイングをすることで、先生が学生にどのように接し、指導しているのかがわかった。
- ・学生の当日の体調、個性、看護過程の進捗状況に合わせて学生ひとりひとりを指導しており、学生の考え、方向性をうまく自分から気付かせ引出していた。学生に指導するためには、指導者が技術・疾患の理解だけではだめだとわかった。
- ・当院でも電子が導入され簡単に選択して看護計画が立案できてしまう現状だが、基本に戻って看護過程の展開ができること、看護行為の目的、根拠を理解して説明できなければ学生に指導できないと思った。
- ・ケアカンファレンスでは、看護問題がずれてしまっているケースがあった。指導ナースはなぜなのかその根拠についての的確に問題修正についてわかりやすく助言されていた。学生に考えさせることが指導では大切だと理解できた。

短い期間でしたが、人事交流に参加させていただきありがとうございました。



### 【3回目】平成29年10月10日(火)～10月12日(木) \*成人慢性期看護学実習3週目

#### ○主な受講科目

##### 成人慢性期看護学実習、看護人間関係論、臨床栄養学

- ・教育内容の変遷や大学での講義内容のオリエンテーションを受け、現在の学生への理解が必要であり、重要だとわかった。
- ・今回は主に3年生の実習について、先生方がどのように事前準備を行い実習に望んでいるか、実習中に学生にどんな関わりを行っているのかを学ぶことができました。学生一人ひとりを見極め関わっていくことの大切さと、それ以上の大変さも感じました。当院で実習を受け入れるとなった場合に、どのように学生の実習環境を整えるべきか、指導者間の情報共有とスキルアップが必要と感じました。
- ・学生と関わっている先生方の生の意見を聞いたことや、同じ規模の病院の方と情報交換できたことが収穫となりました。



### 【4回目】平成29年10月24日(火)～10月26日(木) \*成人慢性期看護学実習2週目

#### ○主な受講科目

##### 成人慢性期看護学実習

- ・人事交流参加目的として、看護学生の実習を受け入れる場合の参考とすること、実習の状況や指導方法を新卒者指導に活かすこと、大学の取り組みを人材育成に活かす事をもって参加した。実習生を受け入れる場合の指導体制については不安も多く、今後受け入れ側として大学との共通理解のもと、様々な課題をクリアし体制作りが重要である。まずは、基盤作りから考えないといけない。
- ・看護過程の展開に必要な情報を、丁寧に何度も教え相談していて、職場での記録の記入・看護計画の振り返りができた。生徒・患者・スタッフの個別性を重視した指導・ケアが大切だと実感した。



### 【5回目】平成29年11月9日(木)～11月13日(月)

#### ○主な受講科目

##### 終末期看護論、在宅看護概論、看護教育学、看護倫理、心身障がい論、グループワーク

- ・ワールドカフェ形式のグループワークを初めて体験した。楽しい雰囲気があり、意見を出し合う場としてはとても良い方法だと感じた。色々な人と話すことにより、沢山のヒントも貰えるし、是非職場でも実践していきたい。
- ・今回の人事交流参加目的の一つは、「終末期看護論」を学ぶことであった。終末期の看護として「最後までその人らしく生を全うできるように尊厳を保つ」は現在まさに私たちが行っていることであり、今年度取り組ん



でいるグリーンワークの裏づけとなった。一つとして同じ事例がない終末期の看護の一つ一つに対して、丁寧なかかわりをしていきたいと思う。

・在宅看護論では、臨床で実際に退院支援に関わっている事もあり、講義内容と結びつけて学ぶことができた。学生は、今回学んだことを実習や臨床を通して理解していくと思うので、アドバイスを求められたときに対応できるように、今後の臨床でも経験を積んでいきたい。

・河北病院の取り組みや倫理を受講して、振り返り・再確認できた。専門職という意識を強く伝えたいように感じた。教育が大切と実感した。



## 【6回目】平成29年11月15日(水)～17日(金)

### ○主な受講科目

ジェネラリズム看護論、終末期看護論、助産管理、在宅看護概論



・ディスカッションでは、大学4年生が抱える疑問に触れ、語ることで看護実践の振り返りとなった。暗黙知として行っていたことを言葉にして伝えることは大変なエネルギーであったが、学生さんの意見を聞いたことは、今後迎える新人教育の参考になった。

・学生と直接話すことで、自分を見つめる良い機会となった。

・今回、療養型病院で大切な部分の講義を多く聴くことができとても良かったです。ジェネラリズム看護論での現場のナースの生の声を聞いて学ぶことは、学生には新鮮で大きな学びになると感じました。私も、言葉にして伝える難しさを感じました。昨年も参加させていただきましたが、是非来年も参加できればと思います。終末期看護論での橋本先生の話には心打たれました。自分の現在の看護について講義の後に考えました。急性期病院にはない慢性期病院ならではの多くの魅力を引き出し患者と関わる為にも、今後も学ぶ機会を大切にしながら現場で生かしていきたいと思います。

・ブラッシュアップ研修、フォローアップ研修、人事交流と参加させていただくことで、大学の流れや学生との関わり方などがわかってきました。この経験を現場に伝えながら、実習受け入れに生かしていきたいと思います。参加させていただき、ありがとうございました。